



気象変化に対応する米づくりへ

Part3 乳白・背白・基部未熟粒の発生要因と対策



7年産のは各地域・品種ともに2等以下の格付理由の半数以上が乳白粒によるものでした。連載part3では、発生要因と技術対策について要点をまとめます。

種類解説		要因
乳白粒	胚乳部に白色不透明な部分がある 部分的にデンプン供給不足で発生	●登熟初期の高温・日照不足 ●穀数過多・総粒数30,000粒/m ³ を上回ると発生率が高い
背白粒	米粒の背部に白色不透明な部分がある	●登熟中・後期の高温
基部未熟	米粒の基部に白色不透明な部分がある	●登熟期の稻体の活力低下

1 基本技術の再確認

(ア)土づくり肥料(田華の豊稻)の基準施用量の散布によるpH改善とケイ酸・リン酸の補給

(イ)深起(春)により、作土深を十分に確保(目標15cm程度)して根を深く張ることで、出穗期～登熟期における養水分の吸収促進。高温に負けない稻体を作る。

(ウ)活着後の浅水管理による分けつ促進、適切な中干し、出穗前後の浅水管理適切な水管理、収穫間際までの間断灌漑などの適切な水管理

基準施用量
粒状の場合 60kg～80kg/10a
砂状の場合 60kg～100kg/10a
(圃場の土壤pHに応じて施肥量を調整して下さい。)

JALレーキ伊吹の土づくり資材
田華の豊稻の粒状(左)と砂状(右)



2 高温対策の例

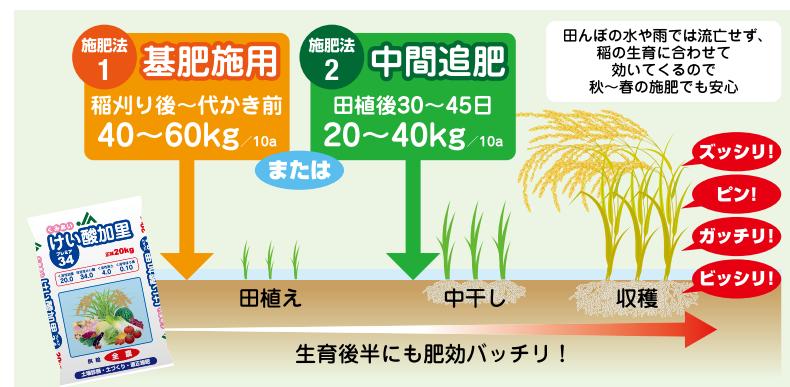
(ア)中間施肥の検討

高温障害対策に「ケイ酸加里プレミアム34」

(詳しくは別紙チラシをご覧下さい。)

ケイ酸とカリを補給することで…

- ①根張り向上
- ②倒伏軽減
- ③乳白粒発生を軽減
- ④日照不足・低温時の登熟不良対策
- ⑤収量アップ



3 稲体の活力維持

(ア)適正な湛水管理で稻の活力維持 →

適正な湛水管理とは?

(イ)葉色判断に基づく追肥の検討

一施肥体系であっても出穗期+約5日以内に葉色4.0以下の場合は2kg上限/10a追肥

カドミウムの吸収抑制の観点から湛水管理の技術が普及していますが、深水による湛水管理の圃場が多く見られます。浅水(水深2cm～3cm)による湛水管理を行いましょう。

浅水湛水管理の効果とは?

- 根の酸素供給を促し、根腐れ防止・根の伸長を促進・窒素供給の促進
- 地温上昇を抑え、根の活力を維持することにより、高温下でも登熟向上に繋がる

次回は重要な技術対策となる着色粒対策のポイントについて掲載します。